

公益社団法人 愛知県看護協会  
平成25年度  
摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程

修了式



Congratulations!

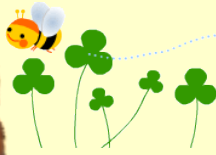
平成26年3月28日に愛知県看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程 修了式が行われました。

受講生は、慣れない環境に戸惑いながらも、仲間と助け合っ  
て、630時間に及ぶ講義や実習に臨んだ結果、無事に修了式を  
迎えることができました。

これから32名の修了生は、5月の認定審査に晴れて合格し、  
「摂食・嚥下障害認定看護師」として新しい スタートを切る  
予定です！！



## 半年間の研修を終えて



旭川赤十字病院

田中 亮一さん



今から半年前われわれ9期生は、全国各地から同じ志を持ち研修に参加しました。

知らない者同士やや緊張の面持ちで研修は始まりましたが、同じ志を持った仲間は自然と打ち解けていきました。講義内容はどれも充実しており、特に著明な講師陣から受ける講義はとても刺激となりました。

また特に思い出深いのはグループワークでした。求められている内容を理解し、自分たちの考えをプレゼンテーションすることの難しさを知りました。連日頭を突き合わせて遅くまで話し合い、自分とは違う仲間の意見を知り、真剣だからこそ時にはぶつかりながら、その中で考えをまとめあげていくことの必要性を学ぶことができました。

年が明けてからの実習は期待と不安のなか始まりました。それまでの学びをいかに発揮する意気込みで挑みましたが思うようにいかず、毎日が必死で肉体的にも精神的にも大変な時期でもありましたが、仲間と助け合い、専任教員に支えられ、指導者や病棟スタッフを始め多くの方々にお世話になり乗り越えることができました。苦しんで乗り越えたからこそ、実習での学びはかけがえのない大きな財産となりました。

摂食・嚥下障害認定看護師の役割は、日常生活に密着する中で変化する患者の状態を把握し、リスク管理をしながら「食べる可能性」を見出すことであると考えています。そのためには、ただ単に摂食・嚥下機能だけに捉われるのではなく、全人的に看る視点が必要です。食べることは生きることに繋がっています。単に生命を維持するだけでなく生活や人生を豊かにするものです。その人にとっての食べることの意味を共に考え、そのうえで認定看護師として何ができるのかを問い続けながらこれからの活動を行っていかねばなりません。

半年間の研修は長く厳しいものでしたが、専任教員の熱く、厳しく、大きな心と9期生の絆に支えられ乗り越えることができました。研修での学びをさらに深めて、より多くの患者さんに「食べる楽しみ」を届けられるようこれからも精進してまいります。



愛知県済生会

リハビリテーション病院

水越 朋代さん



半年間の教育課程での講義・演習・臨地実習を通して、最後まであきらめずに「口から食べる」を支え続けることの重要性や、嚥下機能だけでなく背景を含めて全人的に患者さんを支援していくことの必要性をじっくり考え学ぶことができました。摂食・嚥下障害の第一線で活躍される講師の方々による講義では、認定看護師として活動するための深い知識と心構えを学ぶことができ、臨地実習では摂食・嚥下障害看護認定看護師としてご活躍されている先輩方に臨床の場における判断、指導方法、チームの中での関わり方を丁寧にご指導いただきました。臨地実習の5週間は、ご本人・ご家族の思いやこれからの生き方をどうしていきたいのかを考え、食べることへの援助方法に悩んだ毎日でした。このことが自分の看護観を振り返るきっかけとなり、認定看護師として求められる判断が患者さんの人生を左右するという重圧と戦いながら、その責任を全うしなければならない役割を学ぶことができました。また、グループワークにおいては、仲間の意見を聞くことで違う方向からの考え方や相手の思いを知ることができ、自分の学びを深めることができました。

課題や科目試験の苦しみや今後の自分の活動に対する不安、実習における無力感に押しつぶされそうになることもありましたが、お互いに支え合える仲間がいたからこそ頑張ることができました。看護は一人では出来るものではなくたくさんの仲間と取り組んでいくものであり、この研修を通して支え合ってきた仲間たちがいたから乗り越えられたことを忘れずに、今後は自施設の仲間たちと一緒に、ただ単に「口から食べる」だけでなく楽しくおいしく食べることができるよう患者さんのために頑張りたいと思います。教育課程での学びと認定看護師としての志を忘れずに、これからも仲間たちとともに摂食・嚥下障害患者さんの人生を援助できるよう努めていきたいと思っております。